

特別賞

所在地：東京都品川区
病床数：594床
従業員数：1,453人（うち看護職員数763人）
入院基本料看護配置：急性期一般入院基本料1

NTT 東日本関東病院

RPA(ロボットによる業務自動化)導入による看護管理業務の効率化

取組の きっかけ

- 看護管理業務として、採用・退職・異動・産休・病休・短時間勤務者の時間変更など看護師の勤務変更に関する人員管理データ集計および資料作成があった
- 上記作業は大量のデータを手作業で行うため、目視による転記ミスや計算ミスが頻繁に起こりやすく、またその他業務による作業が中断することも多く時間外で対応することが恒常化していた

主な 取組内容

- RPA（Robotic Process Automation：ロボットによる業務自動化）による「人員管理データ集計・資料作成」の効率化

【RPA導入前】

- 1) 看護システムから各部署の配属者と人数の一覧が書かれた「看護職員配置表」を印刷
- 2) 「看護職員配置表」の情報を①「部署別配置資料」へ手作業で入力
- 3) 「看護職員配置表」の情報から全看護師数を計算し、②「看護部全体人事資料」へ手作業で入力
- 4) 看護師の勤務変更について①「部署別配置資料」と「配置換等通知書」に手作業で入力
- 5) ①「部署別配置資料」と「勤務割実績表」の人数に相違がないか目視で確認
- 6) ①「部署別配置資料」と②「看護部全体人事資料」の人数に相違がないか目視で確認
- 7) ①「部署別配置資料」と②「看護部全体人事資料」の資料完成

【RPA導入後】

- 1) RPAが定められた期日に自動で看護システムより情報を抽出し、左記1)～6)の行程を行う
- 2) ①「部署別配置資料」と②「看護部全体人事資料」の資料完成

＜RPA導入の効果が高いとされる作業＞

- ・ 定期的に行う単純作業
- ・ 大量のデータの登録等繰り返す作業
- ・ 特定の時期にデータが増える作業
- ・ 人が作業するとミスが発生する可能性がある作業



- RPA導入に伴う具体的取組

- ① 看護管理者が「人員管理データ集計・資料作成」の作業工程を洗い出し
- ② 洗い出した作業工程を看護管理者、企画課長、担当システムエンジニアで確認し、システムを構築
- ③ 適宜システムの修正

取組の 成果と効果

- ① 看護管理者の業務として毎月1回、手作業で**3～4時間を要していたものが、その作業を全てRPAが行うため、資料印刷のみ（5分）で完了するようになった**
- ② 転記ミスや計算ミスが防止できることで正確な資料作成が可能となった

結果 RPA導入前後比較

	RPA導入前		RPA導入後
作業工程	印刷・入力・計算・確認		なし
作業頻度	毎月		毎月
作業時間	1回3～4時間 36～48時間/年		1回5分 1時間/年
消耗品	1回 A4 20枚 240枚/年		なし
使用物品	電子カルテPC		専用PC（院内専用）
人件費	36～48時間/年 (10～15万円)		ライセンス使用料 100～150万円 SE契約料

参考：電子カルテのシステム改修を行ったとしたら、数百～千万円
さらに3か月程度の期間を要する



病院外観

- 今までは時間外にストレスを抱えながら資料作成していたが、RPA導入後は5分で終わり、かつミスもないため非常に楽になった。その分、適切な人員配置や業務の効率化の図り方について考える時間ができた（看護管理者より）



※ 職員の個人情報を扱うことから、情報セキュリティ上、通常使用しているPCではなく、ネットワークとつながらないRPA専用PC上で出力されている